



ごみ拾いの様子をカメラで撮影して自分のアカウントに投稿

「くるめクリーンパートナー」は、今年で20年目を迎えました。個人や事業所が定期的に道路や公園などの美化活動を行い、市は用具の貸し出しや軍手などの提供を行っています。活動する人の様子を他の人が見ることで「ポイ捨てをしてはいけない」と思ってもらう効果もあります。

## 美化活動をインスタグラムで

「くるめクリーンパートナー」開始から20年

### 感染症対策を徹底して

今年度はInstagramを活用した「くるめInstagramをい」を開催します。参加方法は、まずごみ拾いの様子を写真撮影。あとは市公式アカウントをフォローし「#くるめInstagramごみ拾い」を付けて写真を投稿するだけ。期間は10月11日(月)から11月30日(火)まで。写真を投稿し、新たにクリーンパートナーに登録した先着50組に「タオル製造時の残糸で作った軍手」をプレゼントします。マスクの着用や身体的距離の確保など感染対策を徹底しながら活動をお願いします。

◎環境政策課 (☎0942・30・9146、FAX0942・30・9715)

# 藩の国産品「久留米絨」

少女が発案した意匠の織物

江戸時代、どこにも織機おひだてがあり、一家の着物はほとんどが手織りでした。「日ばた」といって、一日に一反織れるようになって一人前の時代。天明8(1788)年、久留米絨の創始者・井上伝が生まれます。7歳頃から木綿織りを始め、12歳頃には一人前の織り手に成長。精巧な縞模様しまを織っては人々に売り、家計を助けます。

14歳の頃には、数十人もの弟子を抱えるほどに。ある時、使い古した着物に色落ちした白い斑点があるのを見た伝は、興味を覚えます。着物を解きほぐし、木綿の模様を調べ、その通りに糸でくっつけた原糸を藍で染め、乾いた後に糸をほどいて織り上げました。試行錯誤を繰り返し、見事白い斑点が布一面に現れました。これが久留米絨の始まりと言われています。

発明王・田中久重との出会い

伝の織物は、「あられや」「雪ふり」と評判になり、人々は競って買い求めました。絵模様を織りたいと考えた伝は、近くに住む田中久重に相談。天才的な発明で「からくり儀右衛門」と呼ばれた久重は、織りや織機に工夫を加え、品質と技術の向上を図ったときれます。久重の手記には、文化10(1813)年、絵がすりの発明」と書かれています。

伝の弟子は、1000人を超え、その技術は藩領全体に広がります。元治元(1864)年、久留米藩は、絨を「国産品」に指定し、藩外の流出には税をかけます。一人の少女が発明した久留米絨は、藩の経済を支え、久留米を代表する伝統産業として継承されていきました。

◎文化財保護課 (☎0942・30・9225、FAX0942・30・9714)

- 久留米歴代藩主
- 初代 豊氏とようじ
  - 二代 忠頼ただより
  - 三代 頼利よりとし
  - 四代 頼元よりもと
  - 五代 頼旨よりむね
  - 六代 則維のりふさ
  - 七代 頼僮よりゆき
  - 八代 頼貴よりたか
  - 九代 頼徳よりのり
  - 十代 頼永よりとお
  - 十一代 頼成よりしげ
- は今回のモノ語りと関わる藩主

▶井上伝復元絨「十八文様」(久留米絨技術保存会所蔵)



久留米入城400年記念  
重要無形文化財  
久留米絨作品展  
2021  
10/7(水)▶10/10(日)  
時間 10時~17時  
(最終日16時まで)  
会場 アクロス福岡2F  
交差点キヨリウ  
アクロス福岡2F  
入場無料



▲久留米絨始祖機織の図(久留米絨技術保存会所蔵)

◀10月7日(水)から10日(日)まで、アクロス福岡で開催。久留米絨の伝統の技を紹介。明治から現代までの着物や絨布団地等の名品約80点を展示



YouTube 動画公開



### 3 環境シリーズ「脱炭素社会の構築」地球温暖化



環境部庁舎の太陽光発電設備

## 150年で1°Cの気温上昇

国連の機関の報告では、世界の平均気温は約150年で1°C上昇しています。たった1°C上昇するだけで、日本でも真夏日・猛暑日が増加し、大雨の日数や日降水量も増加。高温や大雨などの極端な気候現象は、地球温暖化の進行でさらに危機的な状況となる可能性があります。危機を回避するために、再生可能エネルギーの利用や省エネを促進し、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることが必要です。

### 今、私たちができること

☑ 省エネ家電を選ぶ

☑ 公共交通機関を利用する

☑ 宅配は1回で受け取る

◎環境政策課 (☎0942・30・9146、FAX0942・30・9715)